

質問

今後の介護施設のあり方は

副町長

実情を踏まえて方向性を検討



北村 千寿 議員
きたむら ちとし

質問 高齢者と介護を必要とする人口の今後の予測は。

健康福祉課長 介護保険事業計画では、65歳以上の人口は、R8年50000人弱、R12年46000人強、R17年41000人強。介護を必要とする人口は、R8年929人、R12年909人、R17年894人を予測している。

質問 介護を必要とする人口の減少が予測される中、介護事業所間の連携が必要と考えるが町の見解は。

町長 昨年9月介護事業所間の意見交換会を開催し、各事業所の役割分担等協力体制の構築が必要との意見があった。町は調整役として、意見交換で出た課題の

解決に取り組んでいく。

質問 県ホームページで、飯南町では副町長と元看護部長が中心となり、2つの法人と協議を重ねられ、法人の統合が望ましいとの方向性を出し、最終的に町長が統合を決断されたこと記載されている。このことについての町の見解は。

の手法とと思うが町長の見解は。

町長 副町長をトップに横断的な組織を作って進めること、また、副町長や課長、私も含めた意見交換により結論を出すことが必要。

再質問 今後の介護について、副町長を中心に方向性を出されるべきと思うがいかがか。

副町長 どのような方向性にもっていくのか、各事業所の実情を踏まえて、検討していきたい。

その他の質問

防災
世界農業遺産認定を受けた農業振興



介護を必要とする人と介護士

町長 官と民が一緒に、持続可能な介護福祉政策をデザインし、課題の解決を進めていく必要があると考えている。

再質問 今回のような大きな課題について、副町長が中心となって方向性を検討し、最後は町長が判断したという飯南町の取組は、行政運営



世界農業遺産認定を受け、期待される農業の振興